



プールの新しい活用法

～『プール活用法講演会』～

11月15日(木)、市民会館で市主催による『プール活用法講演会』が開催され、新日鐵室蘭総合病院リハビリテーション科技師長・大道憲一さんを講師に招いて、『水中運動の効用』と題した講演が行われました。

講演で大道さんは、「水中運動は、全身運動や有酸素運動になり、血液の流れが良くなり心肺機能の向上や、また、浮力により足などに負担がかからないためリハビリに最適です」と、全身水中運動の特長や水の物理的特性、水中運動の生理学的変化など、理学療法士としての実体験や、水中運動のさまざまな効用などをスライドを使って話しました。

講演会に参加した市民や新市民プール検討委員会のメンバー80人は、泳ぐだけではないプールの利用法についての講師の話に、うなづいたり、メモをとったりしながら聞き入っていました。



▲『少年水泳教室』などが行われている市民プール

力作をところ狭しと展示

～市民会館サークル展～



11月8日(木)から11日(日)の4日間、市民会館で活動する各種文化サークルの作品を展示する『市民会館サークル展』が開催されました。

このサークル展は、日ごろの活動成果を発表しようと毎年行われているもので、切り絵、彫刻、絵画、和裁など、12のサークルが参加。訪れた多くの方は、展示された作品に興味深げに見入っていました。

黄金色の稲穂に実りの秋を満喫

～ふれあい農園『稲刈り』～

10月27日(土)、千歳町の『ふれあい農園』で、幌別中学校区「子ども地域交流プラザ」運営委員会主催による『きらら397』の稲刈りが行われました。

秋晴れとなったこの日は、6月2日に田植えを行った市内の幼稚園や幌別小、幌別東小、幌別中などの子どもたちやPTAなど約250人が参加し、日差しを浴びて黄金色に輝く稲穂を、一株一株ていねいに刈り取り、収穫の秋を満喫していました。

刈り取られた稲は、12月8日(土)に行われる収穫祭で試食される予定です。



好プレー、珍プレー続出

～第19回市民ミニバレー大会兼
第12回登子連ミニバレー大会～

11月4日(日)、登別市子ども体育成連絡協議会や文化・スポーツ振興財団などの主催による『第19回市民ミニバレー大会兼第12回登子連ミニバレー大会』が総合体育館で開催され、小・中学生18チーム、男子11チーム、女子17チームの合わせて214人が参加しました。

ミニバレーは、十勝管内大樹町で考案されたもので、1チーム4人で6人制バレーボールコート(3分の1)を使用し、ビニール製のボールを打ち合せて、11点を先取するスポーツ。ボールは柔らかく変化に富み、参加した選手は、球筋の意外性に四苦八苦し、家族やチームメイトからさかんな声援を受けながら好プレー、珍プレーを見せていました。

